

里山簡易放牧場で、 元気な牛づくりを目指す

飼料、肥料、燃油の高騰など、畜産業者に吹く風は厳しい。草地改良、牛舎・放牧場の整備、トラクターなど作業機械の買い替え、最大の課題はコスト管理。飼育頭数の増頭に向けASTが行くっ！

↓宮守町鱒沢にある長瀬国博さんの放牧場。寒さの厳しい冬でも、舎外で運動をさせることで強い牛づくりにつながっている



ただほ 多田忠穂さん
58歳 宮守町達首部

を毎日確認しながら、寒い冬でも舎外で運動させるなど、強い牛づくりに取り組んでいます。現在の飼育頭数は十二頭。簡易放牧場はこの強い牛づくりにも大きな効果をもたらしています。市農業活性化本部の八重樫正久さんは「このほかにも、遊休ビニールハウスを利用した簡易牛舎の建設費用への助成など、コストを抑えた増頭対策に取り組んでいます」と紹介しています。多田さんは「もっといろいろな情報を発信しながら、わたしたちと一緒に遠野に合った畜産業の形を考えてほしい」とさらなる期待を寄せます。元気な牛づくりは、元気な遠野農業の形をつくりまします。

←遊休ビニールハウスを活用した「低コスト簡易牛舎建設支援事業」。頭数増への期待がかかる
↓毎日愛情をいっぱい込めて牛の世話をする多田さん



市内の黒毛和牛繁殖農家の田牛飼育頭数は、現在三千三百七十頭。頭数では、ASTチャレンジ100が掲げる目標値を百七十七頭上回っています。飼料の高騰や市場価格の低下などにより、生産額は伸び悩む状況となっています。三十三年前から牛の繁殖に取り組む多田忠穂さんは、平成十九年に電気牧柵を活用した「里山簡易放牧場建設支援事業」を導入しました。ASTが取り組むこの事業は十八年度から実施され、現在までに十八グループが取り入れています。メリットは▽牛の世話にかかる労力の軽減▽餌代の縮減▽牛舎以外での飼育が可能なることによる増頭の三点。生産者の最大の課題であるコストの縮減へ力を入れます。繁殖牛は受胎後十カ月で出産し、その後六十一〜八十日以内に人工授精を行い、次の出産に入ります。元気な子牛を産むためには、母牛の体づくりと健康管理が重要。多田さんは牛の状態



市農業活性化本部 八重樫正久主事
やえがし・ただひさ

里山簡易放牧場や低コスト簡易牛舎への建設支援は、増頭を考えている生産者の大きな味方です。電気牧柵の設置が分からないときは、応援にも伺います。使える制度はどんどん活用し、農業経営の一助にしてください。

ASTインタビュー

櫻井収 農業活性化本部長

さくらい・おさむ

次世代に 自信を持って 引き継げる農業を目指し 全力で応援します



米価の値下がり遠野を揺らす

現在の本市の農業生産額は、米の値下がりが大きく影響し減少を続けています。米の値段は、国が決める仕組みから市場での競争に変わりました。米中心のわたしたち日本人の食事は、パンやめん類などに多様化したため米の消費量を減らし価格を低下させています。また、生産調整のための減反面積は全体の45%とその割合は高く、本市のような水稲中心の地域に大きな打撃を与えています。これは生産者の意欲を低下させ、後継者の育成を妨げ、高齢化、耕作放棄という問題を生み出しています。しかし、暗い話ばかりだけではありません。市内十五カ所の農産物直売所の売り上げは順調に伸びており、十九年度の販売額は、前年度よりも三千万円多い五億三千万円となっています。この額には、農産物以外のものも含まれてはいますが、安全で安心なものを求める消費者が多くなってきています。

耕畜連携による循環型農業推進

現在ASTでは販路拡大、契約栽培の推進に力を入れて取り組んでいます。最大の課題は品質が良く、特徴のあるものを安定供給できる体制づくりです。

この課題を解決するためには、市内の堆肥センターを有効活用した耕種農業と畜産業の連携による循環型農業の確立が必要不可欠であると考えます。生産者の多くはこれまで、化学肥料に依存した生産を行ってきました。しかし本市の家畜頭数などの状況から考えた場合、適正な施肥指導による堆肥活用を基本とした生産に切り替えた方が、特徴のあるもの作りや生産コストの縮減につながります。堆肥資源を有効活用した循環型農業の確立は経営の安定につながり、後継者問題も解消され、安定供給体制づくりを可能とします。

スクラムを組み新農業へ

農業生産額の百億円達成は大きな目標です。この目標に近づくためには、畜産振興が重要な課題です。また、特産品開発も夢のある農業経営には欠かせないので、できないものにとらえていません。計画には「意識を変え、みんなでスクラムを組み新しい遠野農業の形をつくる」という願いも込められています。

今年四月には市の組織を見直し、一次産業の振興のための体制を強化します。特に市、農

■平成21年度に予定するASTが取り組む事業の概要(一例)

事業名	品目	事業概要
契約野菜栽培導入支援事業	野菜	契約栽培に取り組む農業者に対しての資材支援(カボチャトンネル資材、アスパラガス資材)
花き新規栽培者支援事業	花き	新規栽培者への種苗、資材などの購入支援
ブルーベリー収量向上対策事業	特産品	ブルーベリーの鳥害や病害防除ネット設置支援、木材チップなどの購入支援
遠野農業元気アップチャレンジ事業	育成	農業者の自発的計画による提案型農業への支援
里山簡易放牧場建設支援事業	畜産	遊休農地による電気牧柵を活用した里山放牧場建設導入支援

●ASTでは、遠野テレビ10CHで放送する「きょうの遠野」の中で、毎月第2・4水曜日、旬の農業情報をお知らせする「アスト通信」を放送しています。ぜひ、ご覧ください。

業共済組合、JA、畜産振興公社、獣医師会が連携した「畜産総合センター」を新たに開設し、畜産振興を加速させます。

わたしたちASTは、次世代に自信を持って引き継ぐことのできる農業を目指し、生産者の皆さんを全力で応援します。これからの皆さんのご意見、ご要望をお聞かせください。特集「ASTが行くっ!」終わり